

土浦市中心市街地活性化協議会

第 18 回会議議事録

日時 平成 30 年 8 月 29 日 午後 1 時 30 分
会場 土浦商工会議所

1. あいさつ
2. 報告事項
 - (1) 第 17 回土浦市中心市街地活性化協議会
 - (2) 委員の変更
 - (3) 土浦市中心市街地活性化基本計画の変更
3. 協議事項
第二期土浦市中心市街地活性化基本計画について

第18回土浦市中心市街地活性化協議会議事録

開催日時 平成30年8月29日(水)午後1時30分

開催場所 土浦商工会議所

出席者数 委員11名(代理4名)

出席者名

- ・中川喜久治(土浦商工会議所会頭)
- ・伊藤光二郎(土浦都市開発(株)常務取締役)
- ・石田百合子(土浦商工会議所女性会理事)
- ・関和郎(土浦商店街連合会副会長)
- ・森浩孝(土浦市地区長連合会会長)
- ・篠捷子(土浦市女性団体連絡協議会副会長)
- ・高梨将克(㈱アトレ土浦店主任)
- ・鬼澤俊久(土浦市金融団幹事行)
- ・高木節子((一社)霞ヶ浦市民協会副理事長)
- ・永井昭夫(茨城県建築士会土浦支部まちづくり委員長)
- ・寺田正道((一社)茨城県ハイヤー・タクシー協会県南支部会計)
- ・大島郁弘(土浦商工会議所青年部)※代理
- ・梅原隆之(土浦市金融団幹事行)※代理
- ・佐藤之則((公社)茨城県宅地建物取引業協会土浦・つくば支部)※代理
- ・大塚甚市郎((一社)土浦青年会議所)※代理

オブザーバー

- ・横田清泰(内閣府地方創生推進事務局参事官補佐)
 - ・大島孝一(茨城県産業戦略部中小企業課課長補佐)※代理(茨城県)
 - ・塚田庄平(茨城県産業戦略部中小企業課主任)(土浦市)
 - ・佐々木啓(都市計画課長)
 - ・菊田雄彦(まちづくり推進室室長)
 - ・山口晃一(商工観光課係長)
 - ・長坂英治(まちづくり推進室主幹)
 - ・中泉梢(まちづくり推進室主幹)
 - ・武井秀一(商工観光課主幹)
- (事務局：土浦商工会議所)
- ・松井修一(事務局長)
 - ・加賀美吉彦(総務部長)
 - ・飯野晃(商工振興課長)
 - ・稲葉豊実(土浦市中心市街地活性化協議会事務長)
 - ・菅原伸司(商工振興課係長)

1. あいさつ

(中川会長)

今年は日本中どこで 40 度を超えるか分からない程、特に暑い夏を迎えています。岐阜県の病院で熱中症により 5 人の入院患者が亡くなったというニュースを聞きました。

これまでの常識とは違う暑さになっている事だと思います。

日本一の暑さを競う地域があるように、中心市街地の活性化も都市間競争の一つの政策だと思っています。

二期計画認定を目指す時期ですが、中心市街地活性化協議会について改めて申しますと、これまで議会を含めた行政中心で取り組んできた手法では功を奏していない現状を憂いたことから、協議会設置が法律で定められ、民間の意見を取り入れながら計画策定を進める事となったわけです。

5 年前の一期策定の際から申し上げていますが、協議会が重要視しているのは、人口減少や中心市街地の商業の課題など市民が危機感を共有することからはじまり、国の定めた中心市街地活性化の仕組みを活用して土浦独自の計画をつくることでした。

一期計画で重視されたのはエリアで、駅から近い所に霞ヶ浦を有する水辺の都市であることです。霞ヶ浦から亀城公園のエリアを十分活かして交流人口を増やしていくことが大きなテーマでした。茨城県民は森林湖沼環境税を納めて霞ヶ浦を毎日綺麗にしているということ、噴水をつくってアピールする。市庁舎、図書館建設に加え、霞ヶ浦の開発によって観光産業という新たな交流人口を見出すことが一期計画の要点でしたが、残念ながら噴水の建設は国や県との協議を進める中で進捗しなかったわけです。

二期計画ではこの経緯を検証しながら交流人口を増やす対応を変えて行かなければならないと感じています。

この 5 年間で印象的だったことは、市が噴水をつくる計画を策定したことに対し、市民が政策を支援する団体を設立したことでした。「噴水をつくる会」ですが、市の事業を応援して出来る事を進んで取り組むというメッセージを頂いた事は素晴らしい事で感銘を受けた出来事でした。

改めて土浦市民は、まちの事を考えて進んで汗をかける方が多いということでした。

このことから、市の政策を分かりやすく発信して風通しを良くして行くことが、出来る出来ないという議論よりも重要だと感じました。

5 月の総会の際にもお話しましたが、第一期計画は本年度で終了いたします。

本年度は、一期計画の事業遂行を目指す取り組みに加え、二期計画認定に向けた計画策定が行われることとなり、非常に重要で濃厚な年度となります。

このようななか、本日は土浦市が平成 31 年 4 月から 5 年間の計画（案）を策定されましたので、それに対するご意見をいただくことであります。

今後計画（案）に対するパブリックコメントも実施されますが、法定組織である本協議会からの意見書は非常に重要であることは御承知の通りだと思います。

そのことから、本日と次回の協議会で充分ご意見をいただきながら、意見書を整備していきたいと考えております。

二期計画が認定を受けられれば、平成最後の認定になると思います。節目にふさわしい認定基本計画を目指して、本日は活発な議論になるよう進めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

2. 報告事項

定足数報告

(事務局)

規約の定める 1/2 を満たしている事を報告。

(1) 第 17 回土浦市中心市街地活性化協議会

(事務局)

資料 4 議事録をもって報告に代えた

(2) 委員の変更

(事務局)

土浦商工会議所女性会 石田百合子氏、土浦市金融団 鬼澤利久氏、山田孝行氏、3 名の変更があったことを報告

(3) 土浦市中心市街地活性化基本計画変更

(中泉主幹)

国の指導に従い、適合する支援措置に変更したことを報告。

(伊藤副会長)

第16回協議会において、追加申請することになったテナントミックス事業は変更されたのでしょうか。また、補助金の対象になるため申請することも説明がありました。この2点について経過を教えてください。

(中泉主幹)

例年より早まった6月の臨時変更に申請し認定を受け、現在の基本計画は79事業になっています。

また、補助金については6月20日に所管の経済産業省で補助金審査会があり同席して来ましたが、残念ながら採択には至りませんでした。計画に位置づけられましたので、事業者も自己資金で実施するという事になり、既に工事に取り掛かっています。

3. 協議事項

第二期土浦市中心市街地活性化基本計画(案)について

(中川会長)

それでは、暫時議長を務めます。活発な協議になりますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

本日の議題は、土浦市が策定した第二期基本計画(案)に対して皆さんからのご意見をいただくことです。

本日のご発言をもとに、本協議会からの意見書を取りまとめていきますので、忌憚のない意見をいただきたいと思います。

まずは、土浦市より二期計画(案)について土浦市都市計画課の長坂さんよりお願いいたします。

(長坂主幹)

第一期計画の成果と課題、第二期計画基本指針、第二期計画目標指標、第二期目標達成のための事業、計画(案)のパブリックコメントについて説明

(中川会長)

今朝の新聞に載っていましたが、茨城県内のふるさと納税を実施している自治体で半分が採算が取れていないという記事に大変驚きました。

茨城県は13億円、つくば市は4億円の赤字だそうです。土浦市はきちんとされていて県内で上位に入っていました。これも都市間競争だと思いますが、収支のバランスが取れていない自治体が多いという事も気になりましたが、地方は赤字になっても国からの地方交付税で75%は穴埋めできる仕組みがあるという事も気になった記事でした。

中心市街地の活性化も、市の財政が苦しい中、国の集中的な支援を受けられることを含めて取り組むわけです。

第一期計画は、横田オブザーバーの指導のお陰もあり、大きなハード整備を含む当時78事業で認定を受けられたと思います。第二期の概要を聞いて、時代の潮流があるにしても、目玉事業の在り方など一期とは大分違った印象を受けるわけですが、委員の皆様はどのように思われたのでしょうか。皆様のご意見を伺いたいと思います。

(篠委員)

賑わいをつくりたいという事になると、その中心は年配の女性だと思います。これからはこの視点をもっと入れていく必要があると思います。

器を作っても使う人が集まらなければ賑わいは出ないと思います。使う立場の女性が意見を出し合う機会が少なく、ここの意見を集約することは難しいと思いますが、この視点は大事にして欲しいです。

土浦と同じように駅前的大型店が撤退して、そこの活用方法を検討した都市で話を聞いたことがあります。人が集まって何かを出来る場所づくりが大事だという事を伺いました。少しの時間休憩できるスペースや居場所があるだけで人が集まり易くなると思います。駅から亀城公園までは結構な距離があります。途中で空き店舗を使った休憩場所があると、高齢者や子育て世代などは特に街に出やすくなると思います。利用する人

の視点に立った協議が必要だと思えます。

(中川会長)

貴重なご意見だと思えます。市の基本計画策定委員会には女性はいますか。

(佐々木課長)

市のルールで3割は女性委員を入れるという事がありますが、今回は各団体に推薦をいただくなかで結果として全員男性になってしまいました。

(中川会長)

委員のパーセンテージの問題ではなくて、女性の意見も踏まえた計画になるべきだと思いますし、協議会では若者や高齢者の視点を含めた提言をしたいと思っています。協議会の委員の皆さんは各業界の代表で選任されておりますので、広い角度からの意見を頂けると思っております。

(石田委員)

私は車の免許を持っていないので、自転車か徒歩で移動することが多いのですが、駅前通りの歩道が凸凹でひどいことを感じています。以前60代の女性が駅前を歩いていて歩道の段差で転んで顔に怪我をした方がいます。このままでは、高齢者や車いすでは通れないと思えます。

県か市か管轄が分かりませんが、どこかの計画には関連すると思いましたのでこの機会に聞いていただきたいと思えます。

駅前に住んでいますが図書館が出来てから、中年のご夫婦や、子供連れの方たちがたくさん歩くようになってきています。この方々が街の中まで足を延ばせばいいと思っています。

飲食施設も出来ていますが、夜のお店が多くて喫茶店がありません。駅前に待ち合せる場所もなく、ペルチに喫茶店が出来るまでは「土浦の人はコーヒー飲む人がいないのか」なんて言われたこともあります。文化的なこともあるのかもしれませんが、昼間の飲食店が多く出来ることも人が集まるために必要なことだと思います。

(高木委員)

市内と中心市街地の人口の割合が記載された資料がありますが、中心市街地の世帯が減る中、世帯数は増えているようですが、どこの地域で増えているのか教えて頂きたい。

増える背景には土地の買い易さ等があるのかと思ひまして伺います。

(佐々木課長)

おおつ野地区が増えております

(森委員)

人口の問題で中心市街地は自然減が多く、転入者に優遇措置が活用され入ってくる人が増えているとのことでしたが、基準値から約500人も減っています。今回の目標値で0.17%増加させる計画ですが、これは何人になりますか。

また、現在市全体の人口は14万人を割り込んでいます。参考になるか分かりませんが、私は映画が好きなので映画館によく行くのですが、日立市の子育てプロモーションビデオが放映されておりました。土浦市にも良いプロモーションDVDがあるのに、知らない市民も多いようです。せっかく作った映像なので、効果的に活用する検討が必要だと思います。自転車の街のPRも映像が重要ですのでこのような検討も街の賑わいに繋がると思えます。

市民でもPLAY atréを知らない方もまだまだいます。PR方法を検討して利用者が増えてくれば、地域の人も集まってくるので活性化の手段になると思えます。

(佐々木課長)

人口の質問について、なにもしなければ平成35年には7,184人まで減少することに対

しまして、補助事業等の活用により 5.54%に増やし 7,540 人の居住者にする目標です。プロモーション動画については、市のホームページで公表しております。一昨年に新宿のアルタで 3 か月放映したところ SNS 等で反響がありました。このようなこともあり学生が多い街でありますので、高校生を集めてプロモーション活動を試みようという新たな取り組みも検討しているところです。

(寺田委員)

亀城公園の前に住んでいますが、以前は釣りや野球など色々なことをやってとても賑やかだったものでした。ですがいつからか、あれもこれも禁止にされてしまい、わざと人を寄りつかなくしているんだと思ったほどです。

公園の安全を保つために禁止事項を増やしたのかもしれませんが、人の目が多いことによって安全性は高くなるものだと私は思います。

年上の人から安全なことを教わりながら遊ぶことが賑わいなのに、何でも禁止にして寄り付かなくして「公園が綺麗で良かったね」ということだと思えます。

我々は行政とは相反する考えをもっているのかもしれませんが、ヨットのインターハイが行われる時の水郷の水辺整備でも絶対に塀をつくらないでくださいとお願いしていたのに、それをつくられてしまった。人間が集まることで安全は確保されるのに、人を遠ざけてしまう。危険個所が無くなれば責任が生じないという考えでしょうが、これは大変な間違いです。

文化を継承するには、経験豊富な方々から若い方に教えて行くのが一番です。基本計画に体験学習が載っていましたので、少しは変わったのかなとほっとして読んでいました。

(中川会長)

亀城公園の有効活用について、重要な視点だと思います。

先日キララまつりが行われましたが、炎天下のなか、山車や神輿を非常に狭い所で巡行していて危険が伴いますが、市民がルールを守った中で行われていますので事故なく出来ました。このような事も通じる部分があることだと思います。

(佐藤氏)

空店舗に入った場合、家賃の半分を補助する事業がありますが、不動産屋からの視点からすると、家賃相場が低い中で家賃補助にはあまり魅力を感じません。それよりも、店舗設備への補助をした方が効果的だと思います。

安い家賃で始められるので、簡単に店を出す人がいますが設備にお金をかけていないのですぐに辞めてしまいます。店舗にお金がかかっているれば真剣に出店する人が増えると思います。

経験がない人がお店を出すことが多くなっていますので、開業に対する支援に関する事業が載っていたのは良い事だと思います。

(伊藤副会長)

土浦都市開発ではウララビル等の管理をしております。折に触れて誘致活動は行っていますが、現在ペDESTリアンデッキから入った 2 階の正面のところ 2 区画が空き店舗となって 1 年強経過しています。

そこには以前ファストフード店とコーヒーショップが入店しておりました。ファストフード店は約 20 年前のウララオープンから入店しており、市庁舎移転に伴い約 2 年間休業を余儀なくされました。市役所が入り、賑わいが出る事を見越して改装等の再投資もしておりました。しかし開庁から 1 年半くらい経過したところで、思惑が違ったため撤退となりました。3~4 時のアイドルタイムの学生の流れが全くなくなってしまったことが原因です。

一方コーヒーショップは市役所が移って来る際に新しい区画を設けて入店したものです。コーヒー 1 杯 280 円ほどでしたが、たった 1 年半で撤退してしまいました。

先ほど石田委員さんが土浦にはコーヒーを飲む人がいないのかと言っていました、正にその通りだと思っています。入店前には市場調査もしたはずですが、「土浦の人はコ

ーヒーの文化を知らないのか」と言うのが業者の最後の捨て台詞でした。

先月新たな候補として3店挙がってきました。一つは1杯400～500円の高級志向のコーヒーショップです。同店のマーケティングの結果は市役所、図書館が出来ても駅前ポテンシャルは低いという辛辣な評価で入店には至りませんでした。

もう1店は2区画約60坪に入ってもらおうようアプローチをかけたのですが、初期投資約5000万円を回収するのに何年かかるか、細かい計算をした書類を提出されました。また、高等学校が多いけれどそれほど流れて来ない。一般の社会人の客の見込みが立たず出店には至りませんでした。

もう1店はFCのインターネットカフェでした。これは大家である市役所が難色を示したため出店に至らなかったわけです。

ネットカフェの利用客に対しアレルギーを示す方がいますが、利用者は免許証などの身分証明書の提示が求められますので、所在不明の人が寝泊まりするということはありません。ですが、こちらからお断りをするようになってしまい現在も2区画空いてしまっている状況です。

現在モバイル関係の企業にアプローチをかけていますが、こちらも結論は出ていません。

このようなことから、駅前と言っても売り上げとコストの問題が大前提になりますので、人の流れが生まれてこないことにはなかなか空き店舗は埋まってこないというのが実感です。

我々が管理するテナントを含め、個人所有の店舗も駅前の家賃が落ちてきています。この事はよろしくない状況です。駅前は坪単価1万円ほどでしたが、とっくに下回ってしまっている。こうなると街そのもののポテンシャルが下がってきて悪循環になってしまいます。

駅前の活性化だけでも大変な労力がかかっていると感じています。居住者を増やすことや交流人口を増やすことを市役所が一生懸命検討していますが、これを具現化するには本当に大変なことだと思います。

協議会の活動に水を差すつもりはございませんが、これが駅前で店舗誘致をしている者の実感であります。

(中川会長)

つい最近ブランディングについての研修を受けました。我々は人口減少社会のなか、中心市街地活性化を切り口にまちを活性化することが目的ですが、5年前より状況はずっと悪くなっています。オリンピック後の2020年問題もあります。またコモディティー現象に覆われないためにはブランド力を高めなければならないという内容でした。

これには都市もあてはまると思っています。土浦では霞ヶ浦をアピールするためにサイクリングを活用してブランド化していく計画だと思います。

また、一期計画でも要望していましたが、霞ヶ浦マラソンのスタートを西口に持ってきて、駅前を人で埋め尽くすことで他地区へのアピールすることも、実行委員会では取り上げてもらえませんでした。

プレミアム付き商品券も商店への波及が無いという評価で廃止になりました。

コモディティー現象を食い止めるためにも、何らかで土浦の魅力やブランド力を高める取り組みが必要で、決して自虐的にならないように事業を展開して欲しいと思います。

(永井委員)

亀城公園整備事業ですが、土浦城址計画とありますがこれは取りまとめたものがあるのでしょうか。公開はされておりますか。

(佐々木課長)

城址計画はかなり古い計画ですが公開もされています。

この中の一事業を何か検討していきたいというものです。

(永井委員)

亀城公園に関連して、川と水路を大規模ではなくて数十メートルでも良いので作って

いただけないかというお願いです。計画的に難しいのでしょうか。

(佐々木課長)

亀城公園については、日本 100 名城に認定されましたので、これを契機にして中活計画のなかで史跡等を活かした整備等について内部で検討しているところです。

(永井委員)

亀城公園の中だけのことですか

(佐々木委員)

以前もお話しましたが、亀城公園の中を一部整備する。その他、スマートフォンの AR 機能を駆使して市内全体をフィールド博物館に見立てて、昔の土浦を感じられることで回遊性を高めて亀城公園周辺の人の流れを作りたいというものでございます。

(永井委員)

水路や川の復活というのは検討がなされていないということでしょうか

(佐々木課長)

中活計画の中では、今ご説明した事業と前回永井委員から質問をいただいた、亀城公園に行くまでの亀城モールの整備を考えているところです。

(永井委員)

私の意見としては、川がイメージできるものを数十メートルで良いので整備いただきたいというものです。

(伊藤副会長)

亀城公園の整備に関連して、先ほどの寺田委員の発言は誠にその通りだと思っていました。

お金をかけて整備するなら、お堀を綺麗にして小鮒をたくさん放すと良いと思います。

月に数回釣り大会を催せば、子供が集まれば親、祖父母が集まります。3 世代が集まることがイベントの常識ですので、こうなると露天商が出店することになり、賑わが出てきて公園の中にも人が集まる相乗効果があるとみています。

まちなかに釣り道具屋が出店する可能性もあり、この好循環でお金をかけずに亀城公園を生き返らせることが出来ると思っています。

(高梨委員)

PLAY atré では回遊施策として、スマートフォンのアプリケーションでサイクリングコース設定が出来ます。初心者用向けの 10k m 以下で駅から亀城公園等のまちなかを回ることが出来ます。

1 階の自転車ショップでは、店員がお客様のレベルに適したコースを設定して案内する事もやっています。

伊藤副会長の話にもありましたが、企業誘致では一方的に断られることが多いのですが、今回のコンセプトを達成したいという強い思いで改装計画を進めています。

今は東京のサイクリストに多く来ていただいています、この方たちは普段渋谷や原宿、外苑前を走っている方々です。この方たちが使っても見劣りをしない施設を作るという思いで我々も取り組んでいます。

まだ第一期ですが四期まで計画しています。土浦の駅ビルのコンセプトを持って街のランドマークとなり得るような施設にして、地方の方にもたくさん来ていただいてサイクリングコースと合わせ、土浦のお店も知っていただけるような事も取り組んでいきたいと思っています。これまでの皆さんの取り組みに加えて、観光客が増えた時に新たな視点をもって商品のレベルを上げる事や、笑顔で接客することも重要です。自店だけではなく沿線のお店のご案内が出来るようになる等、まち全体でイメージアップが出来れば長い目で見た時に必ず生きてくることだと思います。

駅ビルの改装にしても、このような気概をもって街全体のことも考えながら取り組んでいるところです。

(篠委員)

私はサイクリングをしません、港町に住んでいますので、サイクリストを近所でよく見かけます。

町内はのんびりしていますので、お年寄りや子供たちが歩いていると、すぐ横を自転車が駆け抜けて行ってびっくりしたという事を良く聞きます。

サイクリストも注意していただきたいのですが、歩行者の私たちが注意すべきことがあれば教えていただきたい。

(高梨委員)

サイクリングでは25km/hという法定速度以上出してしまう事が多いです。

サイクリストはマナーを意識している人が多いのですが、りんりんロードの道路の切れ目等で止まらない人が一部います。

私も自転車を始めたばかりですが、それまで車の運転をしていた時にサイクリストを受け入れていませんでした。最近は歩行者と車の両方を意識しながらサイクリングをする意識に変わりました。

土浦は比較的道路が整備されています。都内はもっと危険な環境でサイクリングしていますので、お互いが理解をしていくしかないことだと思います。

(大塚氏)

9月23日に土浦青年会議所で霞ヶ浦トライアスロンフェスタを開催します。

土浦新港を泳いで、蓮田を自転車で走り、陸上競技場周辺を走るトライアスロンです。

土浦の魅力を十分発信できる事業になっていると思います。

交流人口については、今回約400名の応募の内、1/3が県外からの応募です。北は青森、南は沖縄までエントリーしてくれた方がいます。木更津トライアスロンが先週開催され、2000人の国内最大規模で実施されています。視察に行きましたが、全国からエントリーがあります。まちなかが気になって見に行ってきたが、参加者や応援の方と思われる方々にぎわっていました。

今後は規模を拡大して、春はマラソン、秋はトライアスロンと言われるようなイベントになれば、環境を活かしたまちづくりの事業が出来るのではないかと考えています。

(大島氏)

サイクリング事業として霞ヶ浦や周辺施設を活用した取り組みは良い事だと思いますがテーマに「歴史が息づき 人々が集う、魅力ある湖畔の都市」とあります。

湖畔のまちと聞いてサイクリスト以外の方の受皿が少し不足しているという感じを受けました。

土浦港周辺広域交流拠点整備事業では、サイクリング事業を推進することとあわせて、それ以外の幅広い観光客が湖畔の魅力を感じられる取り組みになると良いと個人的に感じました。

(佐々木課長)

土浦港周辺広域交流拠点整備事業ではサイクリングを前面に打ち出した展開になっていますが、お話があった通り市民の憩いの場と共にサイクリング拠点という形で市が先行して整備しております。先行整備することが呼び水になって周辺に民間の参入を呼び込むもので、来年度から強力に進めていきたいという考えであります。

その中で、民間との調整の中でサイクリスト以外の方も加味した形で進めていきたいと思っています。

(中川会長)

たくさんのご意見を頂きましたので、次回協議会では反映された形の意見書の素案を示せるように、取りまとめをお願いします。

最後にオブザーバーのお二人からご総括をいただきたいと思います。

(横田オブザーバー)

現在の計画から携わっており、今後二期計画が策定されるということで大変感慨深いものがあります。

5年前に土浦市の基本計画が認定を受けた背景ですが、当時は政権交代がなされて現在の安倍政権になった時期です。以前はコンパクトシティの名の下、公共施設などのインフラを中心市街地に集約することがメインでありました。

政権交代後は地域経済の活性化、地域が稼ぐ力を引き出すことが基本コンセプトになりました。土浦ではイトーヨーカ堂が撤退して大きな空き店舗になってしまいましたが、これを活用してお金の落ちる仕組みを作ることが重要でした。市役所を移転させることが核事業になっていましたので、平成26年の法改正を見据え、中心市街地の空き店舗に市役所とともに商業施設を入れることで地域経済を活性化するモデルケースという位置づけにして認定を受けた背景があります。

今回は、法改正はありませんが、国の成長戦略である地方の稼ぐ力を引き出す方針は変わっていませんので、如何に地域経済の活性化を図るかが重要になってきます。

中川会長が言われたようにブランディングをどのように進めるかにかかってくる。「この街と言えばこれだ」というキーワードが必要です。

NHKでも取り上げられていましたが、土浦市はサイクリングのまちと言われていて、その核施設がPLAY atréだと思います。

今回の計画を見て、厳しい言い方をするとサイクリング以外に核になるものはありません。例を挙げるとエレベーターを整備するだけではインフラ整備であって活性化事業ではありません。エレベーターが整備されることで人の流れが変わるなど、如何にまちの賑わいに繋がっていくかの説明が重要になってきます。

このような意味から、土浦市がサイクリングのまちとして、PLAY atréなどの拠点を活かして、賑わいの点を線にして面にしていくことが課題になりますので、亀城公園と霞ヶ浦を含んだ中心市街地全体に人の流れが生まれるような計画が出来れば認定も見えてくると思います。

基本計画は総理大臣認定ですので、総理決裁が必要です。5年前は私が直接対応したわけですが、基本的に総理レクは1市当たり30秒~1分だけです。総理が「これ良いね」と思うようなインパクトのある内容にしていく事が認定に向けたキーワードになってくると思います。

(大島課長補佐)

本日は課長の滝に代わって出席させていただきました。

私は日頃、地域の商店街振興に携わっていますが、全国の成功事例等を取り上げた「商人塾」等を実施しております。

その中で上手くいっている地域は、行政や商工会議所が熱心に取り組んでいる事に加えて、まちなかの人達から声が挙がるまちです。

伊藤副会長のお話にありましたが、色々な規制がある中で、毎日できなくても1日だけなら安全に出来ることがあると思います。まちの方の声をまちの人が応援できる地域の取り組みは上手くいっています。

水を差す話になるかもしれませんが、宮崎県の日南市では年間800万円でテナントミックスサポートマネージャーを雇って空き店舗対策を約3年間実施しました。結果空き店舗は埋まったのですが、入店したのはネットカフェやインターネットの会社やコンサルタント会社でした。人が集まる場所は出来たのですが、昔の商店街の雰囲気はなくなってしまったのが日南市の例です。

どんなまちづくりになるかは、まちなかの人の思いが大事だと感じています。

出店者もボランティアではありませんので、急激に空き店舗を埋めようとする、まちの思いと違った結果になることがあるわけです。

まちの人が熱心に取り組んでいる地域の話の聞くと10年も20年もかけてまちを復活させています。自然な形で復活しているところはとても時間をかけて取り組んでいます。

土浦市は次の計画を含めると10年となりますので、土浦市を愛して取り組む事業であ

れば、良いまちづくりができるのではないかと思います。

(事務局)

次回 11 月 19 日午後 1 時 30 分に開催することを報告した。